

機課
危管 理

被災地での人的支援活動スタート
東日本大震災の被災地支援活動を報告

市と国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所は5月12日、庄原市ふれあいセンターで「東日本大震災における活動報告会」を開催しました。

この報告会は、市民の皆さんに震災により被害を受けた方への今後の支援と防災について考えてもらうことを目的に開催し、会場を埋め尽くす241人が訪れました。

はじめに三次河川国道事務所の元山勉副所長が現地での対応状況につ



現地の状況をパネルで紹介



被災地の状況を報告する久保係長

いて基調報告を行い、続いて国土交通省・庄原市・庄原市社会福祉協議会の3機関が、現地で行ったそれぞれの活動や支援状況などを報告しました。

市からは人的支援の第1班として4人の職員が宮城県東松島市に向かい、2週間の活動を終え5月8日に帰庄。建設課の久保隆治係長が代表して期間中の活動内容や現状を報告しました。

久保係長は「現地では大変な状況の中、私たちに『がんばって』と声を掛けてくれるなど温かい心に触れとても感動した。復興には何年かかるかわからないが、今回の支援で終わることなく、できる限り長い支援を続けていきたい」と話していました。

市は今後も被災地に向けて、順次人的支援を行っていきます。

城所
西支

地域ぐるみで被害を減らそう
第1回有害鳥獣対策講座開催

市と西城公民館は、有害鳥獣被害を減らすための学習として、連続3回講座「聞いて納得、見て納得、歩いて納得。私にもできる！有害鳥獣対策」を企画し、第1回目の講座を4月28日、西城公民館で開催しました。

この日参加した63人は、近畿中国四国農林業研究センター専門員井上雅央さんを講師に、日ごろ見落としがちな有害鳥獣との接し方や対策の仕方を学びました。

井上さんは「人が恐ろしい存在と示す必要がある。対策は一人では限界があり、地域での共同取り組みが大切」と呼びかけました。

参加者からは「今まで自分たちが何をして良いかわからなかった」「鳥獣の習性を知る必要がある」「二人でなく地域のみんなと取り組みたい」と声が上がっていました。



多くの人が来場



講座のようす